

アイヌ民族博物館

北海道白老郡
しらおい



全長16mのコタンコルクルの像。コタンコルクルとは「むらおさ」の意味で、アイヌ民族にとっては、神宮や調停者に近い存在



ポロト湖に映るチセが美しい



国の重要無形民俗文化財に指定されているアイヌ古式舞踊



開館時間	休館日	料金	電話番号	所在地	アドレス	IC	中央道	JR	白老駅	車で13分	徒歩11分
12時～17時	毎週月曜日	1,500円	0144-82-3914	北海道白老郡白老町若草町234	北海道白老郡白老町若草町234						

明治時代に行われた北海道開拓により、土地や言語など、その豊かなアイヌ文化は長く失われていた。しかし、平成9(1997)年に制定された「アイヌ文化振興法」により、現在では文化と伝統の保護振興に向けた取り組みが行われている。その拠点の一つが同博物館。白老町のポロト湖畔に位置していることから、「大きな湖」を意味するポロトコタノと呼ばれ、アイヌ研究には欠かせない道内屈指の施設となっ

ている。館内には、本州東北部から千島樺太におよぶアイヌ生活圏から集められた資料を展示。売店ではミュージアムグッズや本格的な民芸品販売のほか、民族楽器や書店で手に入らないアイヌ関係の専門書も求めることができます。博物館周辺には五棟のチセ（かやぶきの家）を中心とした施設群が、アイヌ民族の集落を再現。伝統芸能や手工芸の実演、古式舞踏観賞やアイヌ文化の体験学習を行っている。

● 極寒も大丈夫！ アイヌ民族のパートナー



園内で人気を集めるのは、今やテレビCMで「お父さん」としておなじみの北海道犬。厚い綿毛に覆われた塞さに強い体と、ヒグマにも立ち向かう勇敢な気性が狩猟犬に適任。アイヌ民族にとっては家族同様の存在でもあった。園内では「お父さん」の子どもたちをはじめとする数匹の北海道犬や、アイヌ民族にとって最も尊いカムイ(神)とされるヒグマなどが飼育されている。